

# あ・そうかい通信

## 第3回「あ・そうかい文化祭」 やまゆりで開催決定！

会員の皆さん、11月のカレンダーを開いて、4日(月曜日、振替休日)に大きな丸をつけてほしい。第3回を迎える「あ・そうかい文化祭」の日である。まだまだ先のことだが、はじめて「やまゆり」を舞台とする記念すべき開催でもあり、ぜひともいままら参加を予定しておいてほしいのだ。

2017年にはじめて開かれた文化祭。2年続いて開催されたが、会場が「麻生いこいの家」だったため、「駅から遠い」「場所がわかりにくい」の声が少なくなかった。そこで今年は、「やまゆり」の先行予約を申し込み、首尾よく三連休の最終日確保した。会場はおなじみの1階サロンで、音響や照明も万全のなかで開催できるとなった。

これまで2回の開催で残念だったのは、観客席に空席が目立ったこと。やや不慣れた場所とあつて、会員の集まりがよくなかったのである。「あ・そうかい」のホームグラウンドともいえるべき「やまゆり」開催では、ぜひ会場を満員にしたいところだ。

そのためには演目の充実が欠かせない。できるだけ多くの会員に出演してほしい。これは仲間同士の気のおけない集まり。気軽に舞台上に立つてみようではないか。ちなみに、当日は「大安」である。

(佐藤次郎)



## 出演者大募集！

落語 踊り 歌 朗読 芝居 楽器演奏

なんでもOK！

仲間うちの気楽で気軽な集いです

1人または1グループで約15分

なかじまやすし

中島泰志プロデューサー(D班)まで連絡を！

(締め切りは8月末日)



## 魚眼・複眼

最近の話題は「100歳時代を迎え、2000万円の備えが必要だ」というニュースである。

具体的に「今後いくら必要か」と考えている人は何人いるだろうか。

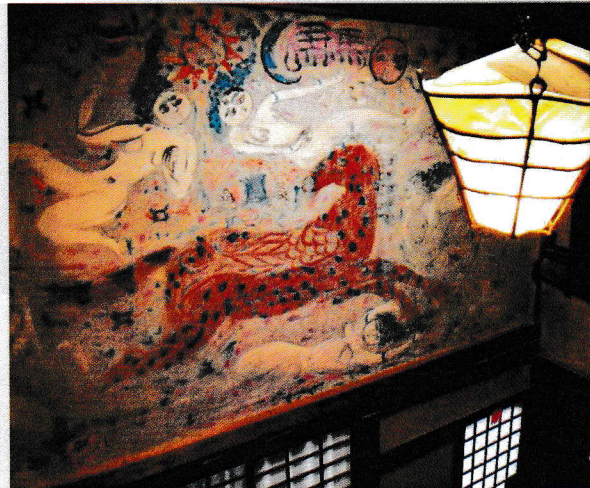
「なるように、なる」と考えている人がほとんどではないでしょうか。そして「ピンポイントで、おさらばよ」と。そこで、一番大切なポイントはストレスフリーな日々を過ごせるかだと言われています。

そのためには、感動・興味・工夫・健康・恋心の「カキケクコ」が快老術の秘訣。「惚れる」はホレル、ボケルと読めるのは皮肉でしょうか。

昔ながらの「歳をとつても、いかに若く見られるか」というタイプではなく、「歳をとればとるほどカッコいい」という、新しい老人タイプを、皆さんで作りに上げたものですね。

「あ・そうかい」は、人材が揃っているの、思い切って「100歳大学」でも開講してみますか。(U)

# 小池魚心と棟方志功



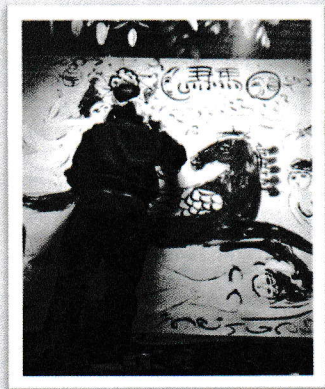
小池陸夫



魚心は自己流の書や版画を数多くつくった文化人で、独特のセンスは桐生内外の人々に愛されていました。その繊細な美意識を表しているのが「芭蕉」の建物です。古民家を継ぎ合わせて設計・建築されており、隅々まで魚心の息遣いが届いている、とても居心地の良い空間となっています。

**私**の郷里、群馬県桐生市は絹織物で栄えた街です。いまでも、重要伝統的建造物群保存地区として、多くの蔵や工場が立ち並び、レトロな雰囲気をかもし出しています。

私の叔父、小池魚心は、この街の糸屋通りで、洋食レストラン「異国調菜 芭蕉」を営んでいました。(叔父の後、従兄の小池一正が後を継ぎ、現在は、その息子2人と一正の妻・敏子さんが店を続けています)。



壁画を制作中の貴重な写真

1953年、既に高名だった棟方志功が「芭蕉」を訪れました。そのたたずまいにすっかりほれ込んだ志功は、入り口右側の壁に一気に筆をふるい、馬に乗った裸婦と周りの情景を描きました。大きさは畳2畳程度。しかし、自分の美意識に忠実な魚心は、その翌朝、「ここには合わない」と大工を呼び、漆喰で塗りつぶしてしまったのです。絵を見るのができたのはほんの数人でした。



お店の前で撮影した集合写真。右から二人目が棟方志功さん

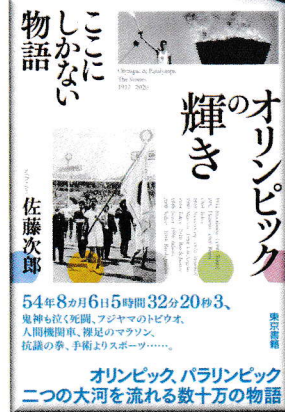
## 会員さんからの「お薦め」情報

「オリンピックの輝きここにしかない物語」

佐藤次郎 / 著



### 著書が発売されました



版元：東京書籍  
本体価格：1700円  
頁数：260 判型：四六

日本が初めてオリンピックに参加した1912年から現在に至るまでの、さまざまなオリンピック、パラリンピアンを103項目にわたって描いている。NHK大河ドラマ「いだてん」に出てくる先駆者たちの真実の姿も。オリンピックは選手にとっても見る側にとっても「特別な」大会。その、まさしく「ここにしかない物語」を、著者は丹念に掘り起こしている。

一読すれば、2020東京がいつそう身近なものとなるはずだ。



↑購入はこちらから